

『仕掛けない』を『仕掛ける』

Creating an Opportunity by “Doing Nothing”

谷 雅徳 (越前屋 俵太)^{*1*2}

Masanori Tani (Hyota Echizenya)

^{*1}関西大学 総合情報学部

Faculty of Informatics, Kansai University

^{*2}仁愛大学 人間学部

Faculty of Human Studies, Jin-ai University

本講演では「仕掛けない」という仕掛けの可能性について述べる。いまから 30 年前、テレビ業界が漫才ブームで沸き返っていた頃、あえてスタジオでの表現を避けて街にテレビカメラを持ち込み、通りがかりの人に対して即興で「何か」を仕掛けることで笑いを作り出した。その後、動物達に仕掛けて反応見る方法論や、外国人に対して言葉を無視した会話を仕掛ける方法論を次々に開発し笑いを誘発させてきた。そして、最終的には「仕掛ける」こともやめ、ただ出会った人達とただ喋るだけのプログラムを開発し、それでも面白い事が起きるとい確証を得た。その番組は、平成 5 年度の日本民間放送連盟賞において最終選考に残り、「料理の鉄人」を破って晴れて最優秀賞を受賞した。このような経験を通じて、「仕掛けない」という「仕掛け」が無限大の可能性を持つ、という考えに至った。